

ショートコメント vol.206 (2021年6月9日)

テーマ：ワクチン接種に連動する景気回復の期待感
～ 7-8月にかけての感染抑制効果が注目される～

●街角景気の状態

内閣府「景気ウォッチャー調査」は、街角景気を映す指標として注目されている。

先日、5月調査の結果が発表されたが、関西の現状判断はやや上昇したものの、4月下旬からの緊急事態宣言により、停滞が続く形となった。その一方、先行き判断については改善がみられる(図表1)。

緊急事態宣言が続く中、先行き判断が改善した要因は、大阪で一部の休業要請が緩和されたことが一因とみられる。また、新規感染者数の減少などを受け、6月20日で緊急事態宣言が解除されるとの期待も高まっている。

それに加え、ワクチン接種の動きが加速していることも、先行きの大きな期待材料といえよう。

特に関西では、ちょうど5月下旬に大阪の大規模接種施設が開設され、接種の動きが一気に早まっている。一時は接種の遅れが失望につながっていただけに、ここへきて期待は大きく高まっている。

●高まるワクチン効果への期待

景気ウォッチャー調査では、景気の定量的な判断に加え、その判断の元となる定性コメントも聴取している。ワクチン関連のコメントが付された景気判断を集計し、その推移をみると、5月調査に大きく上昇したことが分かる(図表2)。

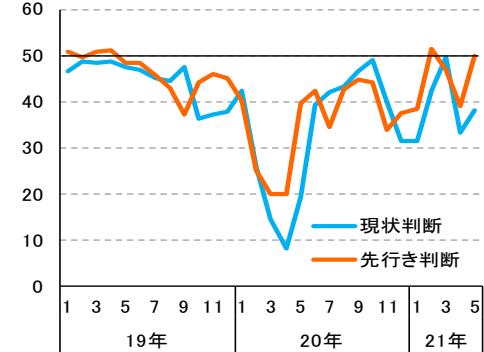
この指数は、まさにワクチンへの期待指数とも言い換えられる。一時は接種の遅れから、2月をピークにいったん低下が進んだが、5月に一気に持ち直す形となった。これは全国でも同様の動きがみられる。

ワクチン関連のコメント件数についても、関西では過去最多となった(図表3)。5月の全コメント数(199件)に対し、ワクチン関連が61件ということで、全体の3割強を占めている。

ワクチンの接種は6月以降も加速することから、今後も景気回復への期待感の高まりそうである。特に関西では、大阪、京都、兵庫で各2か所、合計6か所の大型接種施設がスタートするだけに、その期待は大きい。

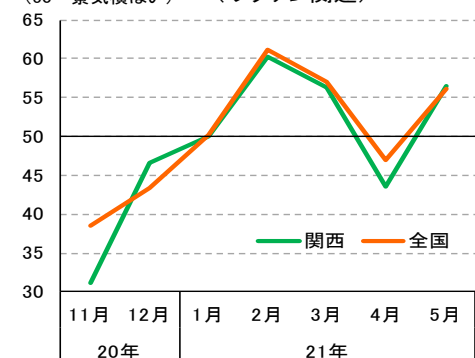
いずれにしても、今や景気の先行きを展望する上で、ワクチンは最大の期待材料となりつつある。さらなる接種の加速は、消費

【図表1】 (関西)景気ウォッチャー調査・景気判断DIの推移 (50=景気横ばい)



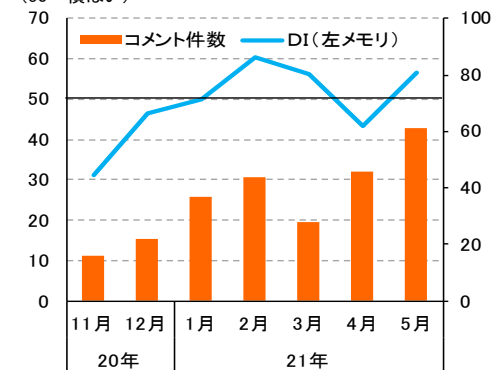
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

【図表2】 景気の先行き判断DIの推移 (50=景気横ばい) (ワクチン関連)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」を元に、当社作成

【図表3】 (関西)ワクチン関連のコメント数と景気判断の推移(先行き) (件)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」を元に、当社作成

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

マインドの改善にも直結する可能性もあるだけに、今後の推移が注目される。

●ワクチンによる感染の抑制効果

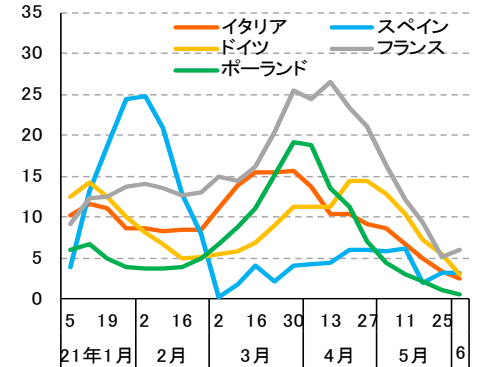
そういった中、今後はワクチン接種の人数に加えて、徐々に感染への効果にも注目が集まるとみられる。

世界的な傾向をみても、ワクチン接種の先行する米国や英国では、明らかに感染状況が落ち着きをみせている。そういった中で注目されるのは、ワクチン接種率が30%から40%といった国々の状況である。30~40%という水準は、ちょうど日本が7~8月ごろに到達することが見込まれる。

現在、欧州で接種率が40%前後にあるのは、ドイツやイタリア、フランス、スペイン、ポーランドといった国々である。図表4のとおり、これらの国の状況を見ると、ひとまずは感染の沈静化が進んでいる。

もちろん、これらがすべてワクチンによるものかは定かではなく、効果を過大評価することは避けねばならない。とはいえ、5月に入り、5つの国でそろって沈静化が進んでいる点は注目に値する。40%前後の接種率に達することで、何らかの効果が表れる可能性はあろう。

【図表4】
(万人)欧州各国の新規感染者数の推移(週次)



(出所)WHO「COVID-19 Weekly Epidemiological Update」

●注目される7~8月の動き

日本では7月末までに高齢者への接種の完了を目標としている。現在はそれを達成できそうな状況であり、大企業による職域接種、先行した自治体による64歳以下への接種などを加えると、プラスアルファの動きも十分に見込まれる。

その結果、7月末時点で高齢者(3600万人)と医療従事者(400万人)で4千万人。そこにプラスアルファで接種を受けた人を加えれば、国民の30%を優に超えることになる。1回だけ接種を受けた人も含めれば、さらに数字は上昇する。8月には40%に到達する可能性もあることから、7月から8月にかけてのタイミングで、何らかの感染抑制効果が出てくる可能性はあろう。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。